

1. 科目名 (単位数)	社会病理 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2304
2. 授業担当教員	久保 貴		
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究、同結果プレゼンテーション、学生との応答	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	心理学、社会学の基礎的知識を理解しておくことが望ましい。		
7. 講義概要	<p>社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。(1) 社会病理とは何か、(2) 社会病理の発生・形成過程、(3) 社会生活に及ぼす影響等について、具体的には、犯罪や非行の問題、いじめや自殺(自死)の問題、格差社会の進展とワーキングプアの問題、青少年のモラトリアムや引き籠もりの問題、児童虐待や男女間のDVの問題、少子・高齢化がもたらす問題、福祉の施設化の問題、性の商品化の問題、カルト集団の問題など、新旧さまざまな「社会病理現象」を、主として社会学、さらに心理学や社会心理学の知見を踏まえて解説していく。</p> <p>これらの問題、病理の内容に応じてグループ研究などを実施し、受講生自らが主体的にそれらの社会病理現象を調査・考察、その打開策を模索していくという参加型の授業形態を採る。</p> <p>個々の病理現象の臨床的考察から、その社会的背景の分析、実践的対応の提示まで、社会病理学への要請に応える授業内容とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 さまざまな社会病理について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明することができるようになる。</li> <li>3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになる。</li> <li>4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機能について理解し、説明することが説明できるようになる。</li> <li>5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになる。</li> </ol>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義前にはテキストの該当箇所を読み、講義後は知識の定着をはかるため、再度、テキストやレジュメに目を通す。</li> <li>2. 個人又はグループ毎にテーマを選定して調査研究をし、発表の準備作業をする。</li> <li>3. 調査研究の結果をレポートにまとめ、資料として配付の上、各個人又はグループごとにプレゼンテーションをする。</li> <li>4. 発表の順番は、第3回の講義で決める(下記の講義日程は暫定的なもの)。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 日本社会病理学会監修、高原正興・矢島正見編著『関係性の社会病理』学文社、2016。</p> <p>【参考書】 山本公平・高原正興・佐々木嬉代三 編著『社会病理のリアリティ』学文社、2006。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 さまざまな社会病理について理解し、説明できるようになったか。</li> <li>2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明できるようになったか。</li> <li>3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになったか。</li> <li>4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機能について理解し、説明することが説明できるようになったか。</li> <li>5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになったか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業中の態度・授業(個人又はグループ研究・発表)への参加度(40%)、2 レポート提出・小テスト(60%)を総合して行う。受講生が多い場合は期末試験を行い、その結果を加味する</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常に新聞・テレビ・インターネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会病理現象と思われる問題について、その社会的、心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的態度で受講されたい。</li> <li>2. 授業に集中すること。私語、携帯・スマホ、ゲーム、飲食、中抜けなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	初回の授業時において周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション —社会病理とは何か—	事前学習	各受講生1例ずつ現在の「社会病理」について調べる。
		事後学習	講義・ディスカッションの内容をまとめる。事例研究のテーマを決めて、調査・研究・取りまとめの計画を立てる。
第2回	現代の社会病理の見方	事前学習	教科書の序章を読む。
		事後学習	講義・ディスカッションの内容をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第3回	事例研究発表の準備	事前学習	担当したい事例(分野)について考えておく。
		事後学習	担当者間で協議し、構想及び分担を決める。事例研究発表の準備をする。
第4回	事例研究(少年非行)	事前学習	教科書の第3章を読む。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。

第5回	事例研究（不登校）	事前学習	教科書の第1章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第6回	事例研究（いじめ）	事前学習	教科書の第2章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第7回	事例研究（少子化・高齢化）	事前学習	教科書の第4章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第8回	事例研究（ストーカー）	事前学習	教科書の第5章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第9回	事例研究（ドメスティック・バイオレンス）	事前学習	教科書の第6章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第10回	事例研究（児童虐待）	事前学習	教科書の第7章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第11回	事例研究（非正規雇用、ワーキングプア）	事前学習	教科書の第8章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第12回	事例研究（ホームレス）	事前学習	教科書の第9章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第13回	事例研究（自殺）	事前学習	教科書の第10章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第14回	事例研究（ひきこもり）	事前学習	担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。
第15回	まとめ（社会病理の改善・解決方策）	事前学習	教科書の終章を読む。
		事後学習	社会病理の改善・解決方策について学んだことをまとめる。